

あきた自動車人材育成研修 品質・安全管理セミナー(秋田会場)

開催内容 自動車関連産業への参入やビジネス拡大の一環として製造部門における品質と安全の基礎を学ぶセミナー



セミナーの様子

2月13日、秋田県庁内で当センター上林プロジェクトマネージャー(PM)による「品質・安全管理セミナー」が開催され、県内のものづくり企業など9社18名が参加した。同セミナーは、トヨタ自動車東日本(株)の品質管理部に38年間勤務した経験を持つ、上林PMが講師となり、県南、県北、中央地区の3ヶ所で毎年開催している。

上林PMはまず、「製造部門で1万件に1件の不具合があったときに、たったの0.01%だと片付けてしまうかもしれないが、その製品を手にしたお客様にとっては1/1であることを忘れてはいけない」と強調。

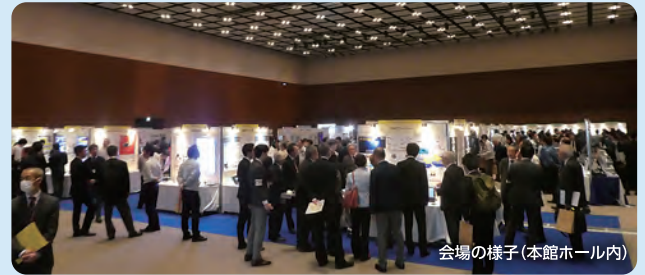
トヨタを例に、「不具合があったとき、ラインを『止める』だけではなく、なぜ止めなければいけなかったのか、原因をそ

の場で解決することが大切」と述べ、ミスを防ぐためには誰がやっても同じ品質を出せるような作業標準書を整理すること、さらに、改善・維持・改訂を継続し、常に未完成と考え見直していくことの重要性を説いた。また、「気をつけても必ずミスは起こる。その時に上司はなぜミスをしたのかと詰問するのではなく、改善が必要な部分があるのではと一緒に考えられる職場づくりが必要」と語った。



とうほく・北海道 新技術 新工法展示商談会

開催内容 トヨタ自動車(株)本館ホールにて8道県の自動車関連企業が集結し自社技術を披露



会場の様子(本館ホール内)

当センターでは、輸送機関連産業に参入する企業に対し、完成車メーカーや大手サプライヤーからの受注獲得・取引拡大に向けた支援を秋田県と共に行っている。

1月30～31日の2日間に渡り、愛知県のトヨタ自動車(株)本社にて東北6県ならび新潟県、北海道を加えた8道県による「とうほく・北海道 新技術 新工法展示商談会」を開催した。

展示会全体で106ブース(企業98社、大学/公設試8者)が出展し、秋田県からは12社、1公設試が参加した。その内秋田県からは6社が初出展である。

会場には8道県連携企画である域内メーカーの自動車部品で構成する車両分解モデル「ショーケースカー」や次世代モビリティに必要な技術を集結したゾーンを新設するなど新たな取り組みも紹介し、来場者に興味を抱かせる展示も併設された。

出展企業の各説明者は完成車メーカーであるトヨタ自動車、その関連企業の開発や調達担当者などに対し、他社にはない自社技術とQCDIに関する技術の提案を行った。当日はトヨタ自動車(株)の役員も会場へ来場されるなど、東北の自

動車関連産業における技術力とその関心の高さがうかがえる展示商談会であった。

開催した2日間の来場者数は、トヨタグループ社員や関連サプライヤーを含め約2,000名にのぼり、出展企業は引き続き試作や見積の依頼対応、個別訪問の戦略を練り、商談成立を目指す。商談の進め方やアプローチなどは当センター上林プロジェクトマネージャーが中心となって、県と連携しながらフォローと参入支援を進めていく。



秋田県出展企業の皆様(本館ホール前)

秋田県出展企業/ ㈱アイハラ、秋田化学工業(株)、(株)秋田研磨工業、アルファ・エレクトロニクス(株)秋田工場、AOS(株)、大橋鉄工秋田(株)、(株)小滝電機製作所、協和精工(株)、小林工業(株)、(株)五洋電子、日発精密工業(株)横手工場、ミネベアミツミ(株)秋田事業所、秋田県産業技術センター